

インドとカースト

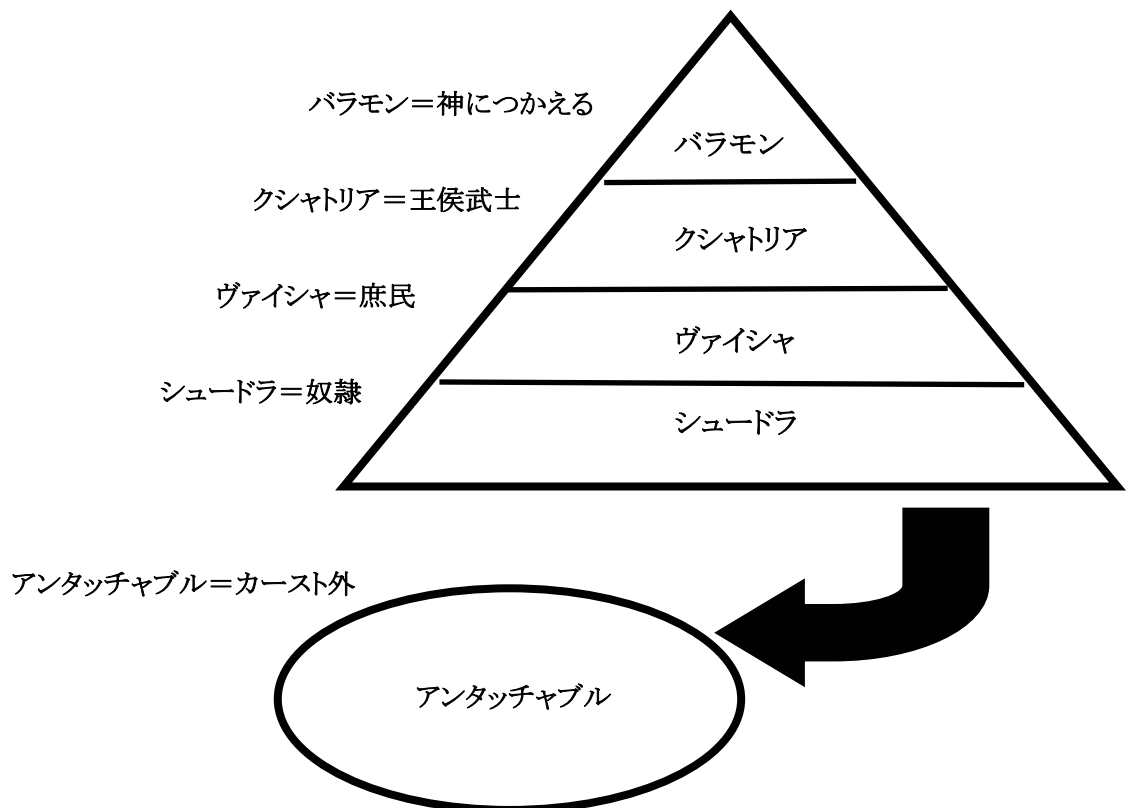
私が読書課題として選んだ本は、『不可触民 もうひとつのインド』である。この本はインド旅行を基に、インド社会の差別を描いたものである。1977年にインドでインドの元首相インデラ・ガンジーが選挙で敗れ、独立以来続いていた国民会議派の政治が終わる。そのことに対し、この本の著者、山際 素男はこの政変を引き起こしたインドの民衆や社会に興味を持ち、インドを訪れる。^I

<消えた事件>

インドを訪れて数日、著者がインド人の知人が運転する車で移動している最中、あるインド人を引いてしまう。しかしながら、車を運転している知人のインド人は気に止めず、そのまま車を運転し続ける。著者は罪悪感を抱きながらも、逮捕されるのではないかと心配するが、数日たっても新聞などでその事件が扱われることはなかった。インド人の友人、知人にもその事件のことを話すが、誰も驚かず、むしろそんなことは忘れてしまえという者さえいた。その後、著者は車に引かれた者がインド社会の下層部で卑しめられている「不可触民」という人々だと知る。それをきっかけとし、著者は「不可触民」と呼ばれる人々に関心を持ち、その人々に直接会い、インド社会の現状を理解しようとする。^{II}

<カースト制度>

カースト制度とはインド社会的身分制度であり、ヒन्दゥー教と密接に関係している。^{III}



各階級により職業が決められており、その職業は世襲制である。カースト上級のバラモンに位置する者は職業として弁護士、官僚などを職業として選べる。しかし、アンタタッチャブルとなると皮革加工、清掃といった下級労働に限られる。また、階級が下がるにつれ社会的地位は低くなり、アンタタッチャブルにおいては不浄と考えられている。

<大量虐殺の歴史>

インド独立後、各地では不可触民の大量殺りくが行われた。1950年、アンドラ・プラデシ州で共産党と不可触民を中心とする農民解放闘争では、少なくとも共産党員、不可触民含め三万人以上が殺害された。また、1960、70年代の共産党員と不可触民を中心とした土地解放運動では二十万人以上が投獄され殺害された。71年カルカッタの工場地区で起きた虐殺はとても惨いものだった。町を警官が包囲し、何百というギャングに住民を襲撃させたのである。男性は手足や胴体などを切断、女性は強姦され殺されていった。町から逃げ出そうとする者は包囲した警察に射殺された。その後、警察へ抗議にいった者も殺害されるという惨い事件だった。このように、インド社会において不可触民に対する差別はひどいものであり、彼らを暴行、強姦、殺害することは日常的に行われている。Ⅳ

<ガンジーと不可触民>

ガンジーは「不可触民」を「神の子(ハリジャン)」と呼び、人々の意識を変え差別をなくすことを試みた。そして、インド独立後、インド憲法では不可触民差別禁止が明記された。しかし、憲法で差別が禁止されても、人々の意識は簡単には変わらなかった。その原因は、カースト制度自体が紀元前から続いているため、インド社会に深く根付いているからである。また、カースト制度がヒンドゥー教と密接な関係を持っているからである。ガンジーは敬虔なヒンドゥー教徒であったため、カースト制は維持し、不可触民の差別だけなくすこと説いた。不可触民の間ではガンジーの差別撤廃運動の評価は低く、単に不可触民という名前を変えただけで何も改善しなかったと批判もある。Ⅴ

<本を読み終えて>

私はこの本を読み、初めてカースト制度というのを知り、インド社会の差別を知った。本を読む前、自分の勝手なイメージだが、インドと聞くと神聖で、活気があり、明るい感じのイメージがあった。しかし、本を読んでいくにつれ、そのイメージは変わっていき、貧困、差別、腐敗、不衛生、野蛮という暗いものに変わっていった。正直なところ、インドへ行くと決めたことを後悔した。しかしその後、日本はどうだろうと考えてみた。

日本においても江戸時代にはカースト制度と似た、社会的差別はあった。士農工商より下位に位置するエタ、ヒニンと呼ばれる人々が存在し、カースト制度同様に居住地、職業は制限されていた。現在においても部落差別というかたちでその差別は続いている。また、在日朝鮮人、中国人、また発展途上国からの外国人労働者などに対する差別はあり、彼らを軽蔑視する雰囲気は日本社会に確かにある。しかし、差別は日本、インドに限ったことではなく、どこの国でも何かしらの差別は発生するだろう。だからしょうがないということではなく、社会全体で差別を考え無くしていく必要があるだろう。そのためには、社会の構成員である一人ひとりが、自分自身で考え判断する力が求められるのではないかと思う。

注

-
- I 山際 素男、『不可触民 もうひとつのインド』、(株)三一書房、1981、pp13-14
- II 同上、pp25-35
- III 山折 哲雄、『スーパー図解雑学』、(株)ナツメ社、2007年、p-114
- IV 山際 素男、『不可触民 もうひとつのインド』、(株)三一書房、1981、pp165-168
- V山際 素男、『不可触民 もうひとつのインド』、(株)三一書房、1981、pp153-164